

【基本的運営方針】 A 優れた作品の収集と保管

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
コレクションの活用状況	コレクションの稼働率	10.0%	9.5%	95.0%	a	近美コレクション展、移動美術館、学校での鑑賞授業、館外貸出による活用点数は延べ498点。収蔵作品数5,218点に対する稼働率は9.5%となり、指標値どおり計画的にコレクションを活用できた。 とりわけ館外貸出については、年度当初の予定数50点に対して実績数93点と大幅に上回るとともに、貸出先も北海道内はもとより、全国(東京、京都、秋田、新潟ほか)や海外(フランス、スペイン)におよぶなど、当館コレクションを広く知ってもらう機会となった。
	所蔵作品を他の美術館企画展で活用					
コレクションの充実度	収集方針に基づき、主体性を持ち積極的に収集活動を行う				a	寄贈により23点の作品を収集。そのうち20点は、当館の収集方針の主軸のひとつ「北海道の美術」に該当するものである。 また、本年度は、美術品取得基金を活用して作品3点(「北海道の美術」および「エコール・ド・パリ」)を購入した。 以上のように、寄贈、購入により、収集方針に基づいた主体的かつ積極的な収集活動を行うことができた。
保管状況の適切さ	適正な保管環境を保持し、必要な調査に基づき措置を行う 計画的に所蔵作品の修復を行う				b	収蔵庫および展示室の温湿度等を随時調査し管理することにより、適正な保管環境を保持することができた。 また、額装の更新や野外彫刻の清掃など、作品状態の最適化に努めた。 その一方で、所蔵作品の修復や、老朽化する収蔵庫及び展示環境の改修などは、計画的に実施する必要があるが、検討自体が進んでいない。

【基本的運営方針】 Aの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	コレクションの活用、充実、保管状況の適切化については、優れた成果を挙げる事ができた。その一方で、作品修復や施設改修など、未着手の課題も残されている。

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 B 多彩で特色ある展示活動の充実

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
常設展示の充実度	常設展示観覧者数	50,000人	46,358人	92.7%	b	観覧者数、観覧者の満足度、リピート率ともに、概ね目標を達成することができた。 また、内容面においても、学芸員の研究成果を反映した特集展示「この1点を見てほしい。」や、道内コレクションとの連携を図った「小樽芸術村×近美 ガラスコレクション」など、多彩な企画を実施することができた。
	常設展示観覧者の満足度	90.0%	86.9%	96.6%		
	常設展示のリピート率	70.0%	62.9%	89.9%		
特別展示の充実度	特別展示の観覧者数	330,000人	406,860人	123.3%	b	観覧者数、観覧者の満足度、リピート率ともに、概ね目標を達成することができた。とりわけ観覧者数については、年度末の実数は指標値に対して大幅に上回った。 また、内容面においても、オランダのファン・ゴッホ美術館との共同企画として札幌・東京・京都の全国3会場を巡回した「ゴッホ展 巡りゆく日本の夢」をはじめ、充実した企画を実施することができた。
	特別展示観覧者の満足度	92.0%	85.9%	93.4%		
	特別展示のリピート率	70.0%	62.4%	89.1%		
入館者の拡充	美術館の魅力を広め入館者増につながる取組の実施				b	「大原美術館展Ⅱ」「ゴッホ展」など放送局・新聞社と共同で展覧会を開催することにより、広範な展覧会広報活動を展開することができた。「高倉健展」では、報道機関へ記者発表を行うとともに、積極的にSNSで情報発信を行った。
展示の状況	展示のねらいが効果的に表現できているか				b	主に子どもの鑑賞をねらいとした「ワンダー☆ミュージアム」では、小学生向けのワークブックや解説シートを配布した。「高倉健」展では、205本の映画を体験してもらうべく、壁4面をスクリーンにするなど見せ方の工夫をした。満足度の数値やアンケートの記述内容によると、いずれの展覧会においても、ほぼねらいどおりの効果を得ることができた。
館外展示の充実度	移動美術館入場者満足度	95.0%	91.5%	96.3%	b	移動美術館については、江差町(9/22～28)及び今金町(10/1～11)の道南2会場において実施し、あわせて1,661名の来場者を得るなど、当館から遠隔地域の道民に作品鑑賞の機会を提供することができた。 館外展示は、知事室や知事公館などへ7点を展示した。
	その他の館外展示の状況					

【基本的運営方針】 Bの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	常設展示および特別展示の充実、入館者の拡充、展示状況、館外展示の充実のいずれの観点においても、十分に目標を達成することができた。とりわけ特別展の観覧者数については、大規模で注目を集める企画を開催しえたことから、指標値を大幅に上回ることができた。

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 C 豊かな人間性を育む学習の場と美術情報の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
教育普及事業の充実度	教育普及プログラムの実施数	550回	628回	114.2%	a	解説活動のほか、ワークショップやコンサートなど、教育普及プログラムの実施数、参加者数、満足度はいずれも高く、年度当初計画を超える成果を上げることができた。 特別展に関連した事業では、講演会、見どころ解説、映画上映会及びランチ&トークなど、多彩なプログラムを実施し、事業の充実を図ることができた。
	教育普及プログラムの参加者数	7,000人	11,580人	165.4%		
	教育普及プログラムの満足度	95.0%	99.3%	104.5%		
	教育普及事業の状況					
美術情報提供の充実度	ARS、図書コーナーの利用者件数	11,000人	10,367人	94.2%	b	美術情報の提供を行うARS(アート・レファレンス・コーナー)の利用者の満足度は高く、メールマガジンの発行数は減じたが、HPアクセス回数やソーシャルメディアの投稿数は指標値を達成し、概ね年度当初計画どおりに行うことができた。 また、北海道立図書館と連携し、図書コーナーに展覧会に関係した図書(著書や雑誌)を置くなど、新たな取組を行った。
	ARS、図書コーナーの利用者満足度	75.0%	62.8%	83.7%		
	多くの来館者が利用できる図書コーナーの環境整備・保持					
	HPアクセス件数	336,000件	382,707件	113.9%		
	メールマガジン等発行回数	7回	3回	42.9%		
	ソーシャルメディアの投稿数	98回	153回	156.1%		
	情報発信の状況					

【基本的運営方針】 Cの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	学習の場と美術情報の提供について、年度当初計画どおりに実施できた。

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 D 活動の基礎となる調査・研究の推進

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
調査・研究の充実度	学芸員による調査報告				b	<p>学芸員の調査研究は美学・美術史・美術館学・美術館教育等を基盤に、コレクションや展覧会、美術館活動等に関して、美術作品や美術作家の研究をはじめ、それぞれの業務進捗に応じての課題やテーマを持って取り組んだ。</p> <p>調査研究の成果は研究紀要や展覧会図録・論文集での論考7件や各種解説、ゴッホ展ガイドブックの執筆、新聞等への寄稿などのほか、館内外での講座・講演・トーク・展示解説等でも86件の発表を行った。</p> <p>特にコレクション研究として所蔵品展のなかの「この1点を見てほしい」(6件)において研究成果を展示に反映させ、同じく所蔵品展「北海道美術50」では同名の書籍の執筆・編集に成果を生かしたことが特筆される。</p> <p>また、学芸員が(公財)鹿島美術財団の助成を受け、ドイツ及びフランスにおいて、美術に関する調査・研究を実施した。</p> <p>図書、文献、各種刊行物その他の二次資料に関しては、国内外美術館等の相互の資料交換を継続的に行い、多分野にわたる資料を受け入れて学芸員の調査研究に活用している。</p>
	二次資料の状況					

【基本的運営方針】 Dの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	年度当初の計画と課題に即して適時にまた継続的に調査研究に取り組み、それらの成果を紀要・図録等の館内外の刊行物や、講座その他の解説活動において発表するとともに、展覧会の展示構成や解説に反映させて、展示内容・鑑賞の充実に資している。また、国内外の美術館等との相互資料交換や受贈によって、他分野の美術関連二次資料を受入れ、調査研究に活用している。

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 E 地域文化の振興

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
地域の関係機関との連携状況	ボランティア団体等の主体的な事業の参加者数	1,500人	2,783人	185.5%	a	平成29年度は、(一社)北海道美術館協会の40周年を記念した事業が実施され、その事業に対して、随時、適切な協力、助言を行うことができた。 また、ボランティア団体の主体的な活動の参加者数も目標を達成できた。 さらに、(公財)道銀文化財団との連携・協力によりミュージアム・コンサートを予定どおり開催することができた。
	ボランティアが活動しやすい場の提供					
	地域と連携した取組の状況					
学校との連携の状況	キャンパスパートナーシップのメンバー校数	3校	3校	100.0%	b	学校教育との連携全般については、概ね年度当初計画どおりに事業を実施することが出来た。 特に、冬季に開催した展覧会「ワンダー☆ミュージアム」では、札幌市立円山小学校と学校連携事業「夜の国の光のオアシス」を実施し、3・4年生(316名)が、アーティストの富士翔太郎氏と共に作品を制作した。 また、出張アート教室、自主研修等の感想文などから児童・生徒の満足度の高さを伺うことができた。
	出張アート教室の延べ参加者数	292人	276人	94.5%		
	指導者研修の延べ参加者数	7人	4人	57.1%		
	学校教育活動への対応数	29件	22件	75.9%		
	参加者・利用者満足度					

【基本的運営方針】 Eの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	関係機関((一社)北海道美術館協会、(公財)道銀文化財団)及び学校ともに、年度当初計画どおりに連携を図ることができた。

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 F 良好な滞在環境の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
附帯施設の充実度	レストラン・喫茶利用者の満足度	80.0%	59.2%	74.0%	b	事業者(レストラン及びミュージアムショップ)と連携し、展覧会の主旨に沿ったサービスを提供いただけるような情報提供を行い、スペシャルメニューの開発や関連商品の販売などに取り組んでいた。 事業者自身の努力もあり、レストラン及びミュージアムショップともに前年度に比べ、大幅に売上げが伸びた。
	ミュージアムショップ利用者満足度	75.0%	65.4%	87.2%		
	事業者と協力してのサービス向上の実践					
館のホスピタリティ	館内スタッフの対応に関する利用者の満足度	85.0%	74.5%	87.6%	c	館内スタッフはもとより事務室への問い合わせに対しても、アンケートで改善を求められた事項を職員が情報共有し、誰もが利用しやすい環境となるよう、ホスピタリティの向上に努めた。
	ホスピタリティ向上に向けた取組み					
施設環境の保持	施設内外の環境への満足度	85.0%	74.4%	87.5%	b	男子用トイレの小便器取替及び大便器取替(和式→洋式)工事を行うとともに、屋外フェンスの修繕(錆取り、色塗り)を美術館職員が行い、施設内外の環境整備に努めた。
	施設安全性保持のための必要な措置					

【基本的運営方針】 Fの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	全般的に良好な滞在環境を提供できたが、引き続き施設環境の保持に努めていく必要がある。

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E